



さくら 2006 冬

発行
社会福祉法人 東桜会
第 10 号
〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

明けましておめでとうございます

東桜会理事長 長谷川達也

新しい年を迎えるにあたり、今年こそ、今年こそと一年のおぼろげながらの計画をたてる。仕事のこと、旅行のこと、我が家の一年のこと、等々。毎年続けてきたが一年をふり返ったとき、10%から 20%しか実現できなくても失望しないことにしている。計画をたてない人もいる。一年をふり返らない人もいる。それよりまだと自分をなぐさめ続けてきた。

それはさておき、最近残念に思っていることがある。広辞苑で「福祉」の欄を開くと、さいわい、幸福、消極的には、生命の危急からの救い。積極的には、生命の繁栄。と書いてある。元来、経済的、身体的弱者に対して救いの手をさしのべ、その見返りを求めないのが福祉であると思い続けてきた。昔から我が国には「隣り組」「町内会」等の制度があり、話し合い、支えあって、地域の問題として処理し、出来ない部分を公が面倒を見る事となっていた。戦後の混乱から立ち直り経済大国化し、物を与える福祉から、真心を与える福祉へと時代は大きく変わった。

しかし、急速な高齢化に伴い、平成12年4月介護保険法が施行され、更に福祉の制度や考え方が一変した。保険料の支払いにより国民の権利意識が強まり、福祉を金で買う時代になってしまったように思えてならない。利用者は新しい制度により選択の巾が出来て便利な面も多く評価できるとしても、新聞等によく見かける「福祉産業」等の言葉に抵抗を感じる。

麻機園等の現場の介護施設は、毎日毎日が戦場のようなもので産業とはほど遠いところと思っている。せめて東桜会の職員には、どのような制度、仕組みになろうとも、いつまでも明るく老人と接し、真心をもって介護に精進し続けてほしいと思っている今日この頃です。

乾杯！

新春の集い

平成 18 年 1 月 1 日

書き初め会

平成 18 年 1 月 2 日

さくらの広場にて“新春の集い”が行われました。今年の目玉は豪華な“おせち”です。お重の中には昆布巻、おなます、きんとん、数の子等がきれいに盛りつけられ、寮母がひとり一人好きなものをうかがい小皿にとりわけ、たくさん召し上がっていただきました。

その後、笛の演奏に合わせて獅子舞が登場すると、大きく口を開いた獅子を見て怖がる方、「噛んでください」と喜んでいる方など、たいへん盛り上がりしました。

また、2日には“書き初め会”を行い、『春』『寿』『戌』などの字を書き、正月気分を味わいました。皆さんの笑顔であふれ、気持ちのよい新年の始まりとなりました。



ご覧になっていただけましたか？

- 麻機園 生活相談員 磯貝つかさ -

昨年4月から入所者の機能訓練を兼ねたレクレーションの一つとして“習字クラブ”を始めました。

講師に長谷川達也理事長を迎え、月2回(第1・3水曜日)のペースで開催し、職員と入所者が一緒になって習字を楽しんでいます。参加する入所者も回を重ねる毎に増え、今では活動日を楽しみにしてくださります。この1年間ひらがなを練習し、書きあげた作品を麻機園の玄関やさくらの広場に展示してきましたが、ご覧になっていただけましたか？



平成18年1月中旬頃より“静岡市農協 あさはた北支店”及び“静岡信用金庫 麻機支店”へ入所者の作品を展示させていただくことになりましたので、ぜひ、ご覧下さい。

また、ご来園時に3階さくらの広場で習字クラブを行っていらっしゃたら、ぜひ、ご参加下さい。

入所者の作品

正月 正月 正月 正月

願いが叶えられるように

- 麻機園ケアプランサービス 大和由美 -

6年間所属していた麻機園の寮母から、異動になり10ヶ月が経った。介護支援専門員の資格を取得した時からケアマネージャーはやってみたい職種であったが、『在宅』は未知の世界、施設の中しか知らない私がやっていけるだろうか？と不安な気持ちの方が大きかった。

実際に利用者のお宅に訪問してみると、独居の方や高齢者世帯が想像以上に多い事に驚いた。介護保険に関しても「そんな便利なものがあるとは知らなかった」という方が多く、もっと早くにサービスが提供できていたら・・・と思うことがある。また、身寄りのない方には思わず自分が身内のような感覚になってしまう。難しいケースや失敗する度「この仕事向いていないのかな？」と悩んだりする。でも、今は心からケアマネージャーになって良かったと思っている。

誰もが「いつまでも我が家で生活したい」と考えているに違いない。少しでも長くその願いが叶えられるようお手伝いするために私たちがいる。利用者が『その人らしく』在宅でいつまでも生活できるように。まだまだ頼りないケアマネージャーだけどひとり一人との出会いを大切に、多くの経験を重ね、知識を蓄え、いろいろなことを吸収し、利用者やご家族のために『力』になれる存在になりたい。



私もが経験することと思うが、私にも三十年生きてきて、楽しいこともあったが、辛いこともたくさんあった。ふり返ってみると、色々なところで人に助けられここまで生きてこられたことを実感している。

麻機園で働くようになってからも、仕事の事や自分の事など、考えさせられる時期が続く、周りの方々にたくさん心配と迷惑を掛けてきた。「もうダメなんじゃないか」と考えたことが何度もあった。そんなとき、職員や入所者はいつも私の話を親身になって聞いてくれた。一緒に考え、アドバイスを頂き、「がんばりなさいよ」と励まされたことが心強く、ありがたい！という気持ちで一杯になった。

以前は、何事に対しても長続きせず、すぐに諦めてしまいがちの生活を送っていた。麻機園で働くようになり、そつした人の心に触れ、不器用ながらもがんばっている。また、自分の人生が明るくなったと感じている。八年という長い間勤めてこられたのは、「人の支え」があったからこそだと痛感している。

私はこれからも「人の支え」に助けられながら生きていくだろう。しかし、これからはほんの少しだけでも誰かの「力」になりたいと思う。その人にとっての「支え」になれるよう努力していこうと思う。

「人の支え」

麻機園 寮母 佐藤正之